

22. 絵本大江山【えほんおおえやま】(外)

(刊)半紙本二巻二冊

幕末頃後印

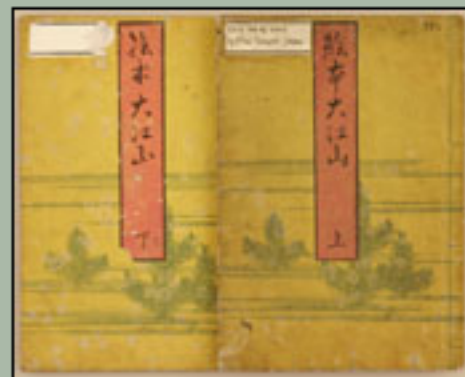
(江戸)北尾政美【きたお・まさよし】画

江戸 須原屋市兵衛【すはらや・いちべえ】板

尾張 永楽屋東四郎【えいらくや・とうしろう】板

彩色版(カッパ刷り)

後印本



一条天皇期、源頼光が大江山に住む酒吞童子を退治した物語の絵入本。上下二巻、全丁絵が主体で、絵に合わせた簡易な文を添えた画面構成。初版は漆山又四郎によると寛政十年『近世の絵入本』、『国書総目録』に「天明六年(1786)成立」とあるのは、「午の猛春 万象子述」(初代・森羅万象)の序文によるか。画中に落款は無いが下巻奥付に「北尾政美(印)」と記され、序文にも「(前略) 蕙齋の主漫に筆を揮【ふる】って大江山の画帖を画く。画き出して然【しか】も妙なり。我亦【われまた】鬼を見ざれども是を見るに似たるが如し。嗚呼【あゝ】政美が画に於【おけ】る実に当世の神手なるかな。」とあり蕙齋政美の画とわかる。この本は、江戸末・明治期に多用された発色の良い化学染料が使用してあることから、寛政の板木を明治期に外国土産としても好まれたカッパ刷りに仕上げたもの。